

# 第 38 回関東ブロック競技別交流大会

## 【 軟式野球 】

### 1 期 日

令和元年 7 月 27 日（土） ブロック別トーナメント 【試合開始】 10：00～  
7 月 28 日（日） ブロック別代表決定戦及び交流戦  
【試合開始】 10：00～

### 2 会 場

桐生球場 群馬県桐生市相生町 3 丁目 300 TEL：0277-52-2362  
広沢球場 群馬県桐生市広沢町 5 丁目 4716-11 TEL：0277-52-3456

### 3 競技規則及び方法

- (1) 本大会は 2019 年公認野球規則・全日本軟式野球連盟競技者必携の「競技運営に関する注意事項」及び「競技に関する連盟特別規則」を適用する。
- (2) 使用球は、全日本軟式野球連盟公認の「ナイガイボール J 号球」とする。
- (3) バットは、木製及び全日本軟式野球連盟公認の「JSBB」マーク入り金属製バットを使用する。
- (4) 金属スパイクの使用を禁止する。
- (5) 捕手の防具は、全日本軟式野球連盟公認のマスク(ショートガード付)・レガーズ・ヘルメット・プロテクター及びファールカップを着用すること。シートノック時から着用し、控の捕手も同等とする。
- (6) 打者・次打者・走者及びベースコーチは、全日本軟式野球連盟公認の「JSBB」マーク入りの両側にイヤーフラップの付いたヘルメットを着用すること。
- (7) ベンチに入れる人員は以下のとおりとする。
  - ① 引率責任者は私服とし、登録指導者とする。なお、団員(選手)への指示、指導はできない。
  - ② 代表指導者(監督)は、背番号 30 番とし、登録有資格指導者(認定員又は認定育成員)であること。
  - ③ 指導者(コーチ)は、背番号 29・28 番とし、登録有資格指導者(認定員又は認定育成員)であること。
  - ④ スコアラーは、私服でチーム帽子を着用することとし、登録指導者とする。なお、団員(選手)への指示、指導はできない。
  - ⑤ 団員(選手)は 10 名以上 20 名以内で、背番号は 0～99 までとし、代表団員(主将)は 10 番とする。
  - ⑥ 同一チームの代表指導者(監督)、指導者(コーチ)、団員(選手)は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。
  - ⑦ 熱中症対策として、1 チーム 2 名の保護者(女性)がベンチに入ることを認める。

#### 4 競技運営に関する取決め事項

- (1) その日の第1試合のチームは、試合開始予定時刻の30分前までに、大会本部が用意する打順表(6通)を持って代表指導者(監督)と代表団員(主将)と一緒に本部へ提出し、照合を受けて攻守の決定を行う。打順表へは出場する団員(選手)全員を記載しフリガナをつけること。
- (2) 第2試合以降のチームは、前の試合の4回終了もしくは40分経過後に打順表を上記同様に行う。
- (3) 試合開始予定時間前でも前の試合が早く終了した場合、次に試合開始を早める場合がある。
- (4) 試合開始時間になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (5) 試合前のシートノックは5分間とする。シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。大会運営上シートノックを行わない場合がある。
- (6) ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用を禁止する。但し、メガホン1個に限り使用を認める。
- (7) 試合のスピード化に関する事項
  - ① 試合の進行状況によっては、タイムを制限することがある。
  - ② 投手の準備投球数は球審の指示により行うこと。
  - ③ 攻守交代は駆け足で行うこと投手に限り歩いても差し支えない。また、代表指導者(監督)指導者(コーチ)のマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
  - ④ 投手は必ず投手板について捕手のサインを見ること。
  - ⑤ 次打者は、必ず次打者席(ネクストバッターボックス)に入り低い姿勢で待つこと。
  - ⑥ 打者は、みだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内で見ること。
  - ⑦ 内野手間のボール回しを制限することがある。
  - ⑧ 代打・代走の通告は氏名と共に代打者・代走者の背番号を球審に見せて行う。
- (8) その他
  - ① ファウルボールの処理については、両チーム選手が行うこと。  
ベンチ前から外野方向へのボールは両ベンチのチーム選手が処理し、バックネット前のボールは攻撃チームの選手が処理すること。
  - ② 小雨の場合、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。
  - ③ 雨天の場合の連絡等について
    - ア. 試合可能な場合は大会本部からチームに連絡する。
    - イ. 当日試合を全く行わない場合と、午前中見合わせて午後から行う場合があるので大会本部からの連絡等に注意すること。

#### 5 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合は7回とし、試合成立は5回終了以降とする。

- (2) 交流試合についても7回戦を原則とするが90分の試合制限時間を採用して行う。但し最低5回までは行うものとする。最終回において同点の場合は(4)に定めるタイブレークは行わず引き分けとする。(90分時間制限とは、90分を過ぎたら新しいイニングに入らないこと。)
- (3) 本大会において7回終了時、同点となった場合は次のイニングからタイブレークに入る。  
タイブレークは、継続打順とし前回の最終打者を1塁走者、2塁の走者は順次前の打者として、無死1塁・2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (4) タイブレークは最大2イニングまでとし、2イニングを行っても勝敗を決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。
- (5) 抽選方法は、全日本軟式野球連盟競技者必携の学童部による。
- (6) 5回終了以前に降雨、日没等で試合続行が困難になった場合は、特別継続試合・大会中止の判断は本部の指示によるものとする。  
① 特別継続試合とは、その日の試合が続行できず、翌日に試合を続行すること。  
② 大会中止とは、予定している日程で大会が行えなくなった場合。
- (7) 得点差によるコールドゲームは、5回終了以降7点差とする。
- (8) 投手の投球制限については、健康維持を考慮し、1日70球までとする。ただし、打撃中に70球に達した場合は、その打者の打撃が完了するまでとする。
- (9) 抗議できるものは、代表指導者(監督)または、当事者でなければならない。
- (10) 代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が投手の所へ行く回数の制限。  
① 代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が、同一イニングに同一投手の所へ2回行くか、行ったとみなされた場合は、投手は交代しなければならない。但し、交代した投手が、他の守備位置につくことは許されるが、同一イニングには再び投手には戻れない。  
② 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を3回とする。
- (11) メンバーの変更は、令和元年7月26日(金)の代表者会議の席上まで認める。その後の変更は認めない。
- (12) 27日に敗れたチームは28日に交流戦を行う。但し、天候やグラウンドの状況により代表決定戦を優先し、交流戦を行わない場合がある。

## 6 雨天による大会運営

### (1) 大会初日

- ① 終日、試合不可能な場合は、初日の日程を2日目(翌日)に順延する。  
但し、交流戦は行わないこととする。なお、代表決定戦については、ブロック毎に、ダブルヘッダーを行い、関東ブロックの代表を決定する。
- ② 各ブロック第1試合終了後、第2試合以降不成立の場合は、翌日に第2試合以降を順延とする。この場合も①同様、交流戦は行わないこととする。  
なお、代表決定戦については、ブロック毎に、ダブルヘッダーを行い、関

東ブロックの代表を決定する。①②ともに代表決定戦は、第1試合終了後、30分後に開始する。

- (2) 大会両日もしくは2日目が試合不可能な場合は、組合せの各ブロックにより、予め9名の団員を選出し、全日本軟式野球連盟「競技者必携」による抽選を行い、関東ブロック代表を決定する。

## 7 その他

- (1) 本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、競技委員協議の上、競技委員長の権限により処理する。
- (2) 記念品交換については、試合開始前のあいさつの時にハガキ交換を行う。ハガキ表面に自分の住所・氏名等を明記の上、27日、28日の2試合、2枚を用意する。
- (3) 応援団について
- ① 自チーム及び相手チームの団員(選手)並びに審判員に対する野次・ブーイングは行わないこと。
  - ② その他、目に余る応援・試合進行の妨げになる応援等については本部、審判団より厳重注意を行います。
  - ③ 球場内にはごみ箱を設置しておりません。ごみが出た場合、お持ち帰りにご協力ください。